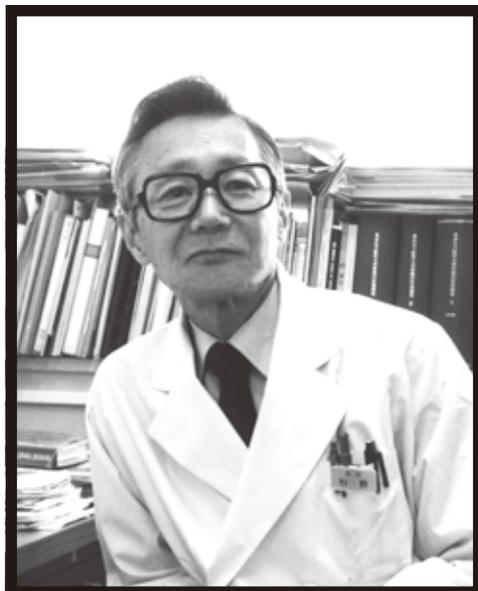


追悼



故 杉野信博 先生 略歴

(大正15年5月5日生～平成28年4月11日没)

<学歴・職歴>

昭和26年 3月 日本大学医学部医学科卒業
 昭和27年 3月 聖路加国際病院インターン修了
 昭和27年 5月 第12回医師国家試験合格
 昭和27年 7月 日本大学医学部第2内科助手
 昭和32年 5月 「体液諸相に関する研究」で医学博士の学位取得
 昭和34年 2月 米国, Harvard 大学生理学教室に Research fellow として留学
 昭和35年12月 日本大学医学部第2内科「電解質と体液」研究班を組織
 昭和36年 7月 アメリカ国立衛生研究所より資金援助を受け principal investigator として研究
 昭和39年 9月 日本大学医学部第2内科講師 (昭和37年4月に任命)
 昭和41年 3月 米国, California 大学心臓血管研究所で Clinical fellow として内科学, 特に体液・電解質・腎の分野の診療・研究に従事
 昭和42年11月 日本大学医学部第2内科講師
 昭和45年 5月 日本大学医学部循環器科科長
 昭和47年 2月 日本大学医学部第2内科助教授
 昭和48年 1月 東京女子医科大学内科教授
 昭和54年 4月 東京女子医科大学腎臓病総合医療センター副所長
 昭和58年 7月 東京女子医科大学第4内科(腎臓内科)主任教授

平成 1年 6月～平成 2年 6月 埼玉県済生会栗橋病院院長 兼任
 平成 4年 3月 東京女子医科大学を定年退職

<学会活動>

●日本腎臓学会
 昭和36年10月～平成4年12月 学術評議員
 昭和49年 9月～平成3年11月 理事
 昭和54年12月～昭和62年10月 監事
 平成 4年12月 名誉会員
 ●日本腎臓財団
 昭和47年 4月～平成 4年 3月 評議員
 平成 4年 4月～平成13年 3月 理事
 平成13年 4月～平成17年 3月 理事長
 ●日本透析療法学会
 昭和60年 7月～昭和63年 7月 常任理事
 昭和60年 7月～平成 3年 7月 評議員
 昭和63年 7月～平成 2年 7月 理事長
 平成 2年 7月～平成 3年 7月 常任理事
 平成 3年 7月 名誉会員

<学会長>

昭和54年12月 第24回人工透析研究会学術集會会長
 昭和58年 5月 第13回日本腎臓学会東部学術大會会長
 昭和61年11月 第29回日本腎臓学会学術總會会長

杉野信博先生を偲んで

(国際医療福祉大学病院 予防医学センター・腎臓内科教授)

湯村和子

日本腎臓学会名誉会員，日本透析医学会名誉会員，東京女子医科大学名誉教授の杉野信博先生は，端午の節句の5月5日で90歳を迎えられる寸前の平成28年4月11日に，突然肺炎で逝去されました。身内の方々のご希望もあり，葬儀はひっそりと行われました。たまたま連絡をいただき日曜日に行われた葬儀に間に合い，お見送りすることができました。杉野先生と長年親交があり，米国に行かれた時には必ずお会いになるというUCLA Medical Centerの腎臓栄養学が専門のKopple JD教授が，偶然にも講演で来日されており，葬儀に駆けつけてこられました。弔辞を述べられたのはKopple JD教授お一人のみでしたが，本当に杉野先生がお別れのためにKopple JD教授を呼び寄せたのではないかと思わせるような光景を眼のあたりにした心温まる葬儀でした。

杉野先生の突然の訃報の余韻が残るなか，東京女子医科大学に赴任された時から指導を受けた者として，杉野先生との思い出を少し述べさせていただきます。

杉野先生は日本大学医学部を卒業後，聖路加国際病院でインターンをされ，日本大学医学部第2内科に入局されました。その時の教授の大島研三先生を師と仰ぎながら，腎生理学を中心に研究をされてきました。

杉野先生が東京女子医科大学に赴任されたのは，東京女子医科大学病院で専門臓器別センター化が進んでいる時で，先生は腎臓内科学を専門とする部門を立ち上げられました。私が大学を卒業した翌年に杉野先生は赴任され，臓器専門の科が次々に独立した医局になってきていて，同期入局では最も多数の研修医が腎臓内科に所属しました。それだけ杉野先生には若い医師を引き付けるパワーと魅力があったということです。

この頃は，まさに循環器内科学から腎臓内科学が独立し透析医療が始まる，というこの分野の日本での夜明けのような時期でもありました。杉野先生は，米国で長く学ばれ，英語も堪能で，英文の文献をたくさん読んでおられ，また，臨床でのお力も素晴らしく，今でいうevidence-based medicine (EBM)に基づいた腹膜や血液透析，電解質異常の治療を行っていただけでなく，効果的な降圧薬のない時代でも最先端の治療を心がけ，長い加療を要する腎臓病の患者さんの心情に配慮しながら丁寧に優しく接しておられました。

腎生理，高血圧，腎病理，腎臓栄養学などの分野でそれぞれ医局員に合った指導をなされ，また，国際腎臓学会やアメリカ腎臓学会への発表，参加を心がけるよう指導されていました。日本にとどまらない世界を念頭に置いての指導は，腎臓病学を専門としようとする若い医師に夢を与えてくださいました。杉野先生の専門外である腎病理を選んだ私が，大学を辞める覚悟で，順天堂大学病理で免疫や実験病理もやりたいと申し出た時，白井俊一教授のところに一緒に出むき，「よろしく頼む」と国内留学という形にしてくださいました。全く異なる専門分野を歩む者にも分け隔てなく，前向きに積極的にサポートされる先生でした。そして，どんな状況でも叱ったり怒ったりしない先生でした。私が，オーストラリアのAtkins RC教授の下に留学したいといて，手続きなどの準備をしていたものの，家庭の事情により途中で取りやめ



杉野先生からいただいた葉書サイズの色紙

た時も先生は私を咎めはしませんでした。私が形態と機能が解離しないで腎臓内科学を学び実践ができたのは、ひとえに杉野先生のおかげと感謝しています。

杉野先生は東京女子医科大学腎臓内科の教授として、大島研三先生が中心になって設立された日本腎臓財団の活動にも参加され、腎臓病学を学ぶ医師に対する助成や透析医療従事者に対する研修、さらに患者や一般の方々へのCKD啓発や移植医療のセミナーなどを積極的に企画・実行され、日本腎臓学会を支える陰の仕事もなさいました。

杉野先生が退官されてしばらく経った頃、「地道に研鑽を」という言葉を書いた葉書サイズの色紙をいただきました(写真)。このお言葉は、杉野先生ご自身の学問に対する姿勢・生き方を示されていると思います。

発展する東京女子医科大学の腎臓内科・腎臓病総合医療センターの基礎を築かれた教授にとどまらず、わが国の急性腎不全から透析まで、腎臓病学のリーダーとして、垣根を越え、広く腎臓病学を学ぶ医師への指導、学問の発展に尽力すること一筋に生きてこられた杉野先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。